

科 目 名	必修／選択	単位数	学 年	学科・類型
家庭基礎	必修	2	1	普通科

科 目 の 概 要	家庭科では、生活のしくみや方法を知り、様々な生活手段が使えるようになることを学びます。そして、生活という視点から、地域や社会という環境を向上させ、自立と共生と人権のあり方を学びます。
	自分の生活を支えるものは、生活手段だけではなく、人々とのかかわり合いであり、そのもっとも身近な人間は家族です。家族とともに過ごす生活のあり方を考えることによって、他の人々とのかかわり合いを考えることに発展していきます。

高校生という立場で、まず自分を見つめ、現在の生活のしくみを学び、そして、自分のこれから的生活をどのように創造していったらよいか考えましょう。

教材名	教科書	高等学校 家庭基礎 ともに生きる・未来をつくる (第一学習社)
	副教材	

①人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得する。  
 ②学習した知識や技術を活かし、家庭や地域の生活課題を主体的に解決する態度を育成する。  
 ③家族や社会との共生を目指し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

①毎時間集中して授業に取り組み、ノートをとること。  
 ②授業で学んだことを家庭で話し合う時間を取り、生活に当てはめ定着を図ること。  
 ③実験・実習関係の提出物は、記入後期限内に提出すること。

評価の方法 及び 評価基準 と 評価規準 ループリック	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	課題の提出状況 授業に対する姿勢	定期試験 グループ学習	定期試験 グループ学習 実習	定期試験
	学習到達目標①	学習到達目標③	学習到達目標②	学習到達目標①
S	人の一生や日常生活の現象について日頃から強い関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組むことができる。	主体的に課題を見つけ、その解決を目指して論理的に思考を深め、適切に判断し、工夫・創造する能力を身につけていく。	衣食に関する高い技術を身につけている。課題に合った適切な情報を意欲的に収集することができる。	授業内容に関する基礎的・基本的な知識だけでなく、さらに発展した内容を理解している。
	A	人の一生と日常生活の現象について関心を持ち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むことができる。	与えられた課題の解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫・創造する能力を身につけている。	授業内容に関する基礎的・基本的な技術を身につけている。課題に合った適切な情報を収集することができる。
	B	日常生活の現象について関心を持ち、取り組むことができる。	与えられた課題の解決を目指して思考を深め、適切に判断する能力を身につけている。	衣食に関する基礎的・基本的な技術を身につけている。適切な情報を収集することができる。
	C	日常生活の現象に 관심を持って取り組むことができず、課題等の取り組みや提出期限が守れない。	課題の解決を目指して思考を深めることができず、適切に判断することができない。	衣食に関する基礎的・基本的な技術が身についていない。情報を収集することができない。

## 年間学習計画

月	章・単元	学習内容・目標等	時数	備考 (テスト・講習等)
4	1編 ともに生きる社会をめざして 1章 青年期 1 青年期を生きる 2 家族家庭と社会とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分らしい生き方を考える。</li> <li>・ジェンダーと性別役割分業意識について知る</li> <li>・家庭生活と職業労働の両立について考える</li> <li>・家族の一員としての意識をもつ。</li> <li>・家族形態の変化とその背景を知る。</li> <li>・男女がともに築く家庭生活について、課題や問題点を考える。</li> </ul>	2 2	自己肯定感を高める (ジョハリの窓)
5	2編 自立した生活をめざして 1章 食べる 1 私たちの暮らしと食生活 2 栄養と食品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食物の役割と健康で安全な食生活の基本を理解する。</li> <li>・食生活の安定供給について考える</li> <li>・栄養・食品・調理・食品衛生などに関する基礎的な知識と技術を習得し、自分や家族の食生活を健康で安全に営むことができるようにする。</li> </ul>	1 6	生活点検
6	3 食品の選び方 4 食生活をデザインする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本人の伝統的な食生活を学び、食べることの意味を考える。</li> </ul>	4 4	
7			4	
8			3	調理実習 6回
9	2編 2章 装う 1 私たちの暮らしと被服	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被服の機能について考える。</li> </ul>	6	第2回定期試験
10	2 被服材料 3 被服の選択と管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繊維・糸・織物・編み物の関係を理解する。</li> <li>・汚れを落とす原理、洗剤の種類や働き補助剤について理解する</li> </ul>	8	被服実習 (ボタン付け・まつり2種)
11	1編 2章 壮年期 1 子どもの心身の発達 2 子どもの生活と親の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・命に対する責任と子どもの幸せを考える。</li> <li>・乳幼児のからだと心の発達について理解する</li> <li>・基本的な生活習慣や遊びの意義を理解する</li> <li>・虐待の現状・子供を取り巻く環境の大切さについて考えを深める</li> </ul>	7	自分の誕生のときのエピソードについて調べる
12	3 子どもをとりまく環境と福祉		6	グループ学習・冬休み課題 (ホームプロジェクト)
1	ホームプロジェクト (発表)		6	
2	1編 3章 高齢期 1 高齢期をどう生きるか 2 高齢者の生活と福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者に対する正しい認識から高齢社会のありかたについて考えていく</li> </ul>	6	
	1編 4章 共生社会と福祉 ともに支えあう社会をめざして	<ul style="list-style-type: none"> <li>・暮らしを支える福祉のあり方を理解する。</li> <li>・多様な人々のニーズ、ノーマライゼーションの理念を理解し、バリアフリーを具体的に考える。</li> </ul>		第4回定期試験
3	2編 4章 消費を考える 1 私たちの暮らしと経済 2 消費者の権利と責任 3 持続可能な社会をめざして	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭の収入と支出</li> <li>・新生活の費用、大学生活の経済学</li> <li>・悪質商法、クレジット、ローン、クーリングオフ</li> </ul>	5	
	2編 3章 住まう 1 私たちの暮らしと住まい 2 快適な住まいをめざして	<ul style="list-style-type: none"> <li>・快適な住生活、間取りの見方</li> <li>・防災対策</li> </ul>		
	生活をデザインしよう 生活設計とは 学校家庭クラブ活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の目指すライフスタイルを考える</li> </ul>		

科 目 名	必修／選択	単位数	学 年	学科・類型
家庭基礎	必修	1	2	理数科

科 目 の 概 要	家庭科では、生活のしくみや方法を知り、様々な生活手段が使えるようになることを学びます。そして、生活という視点から、地域や社会という環境を向上させ、自立と共生と人権のあり方を学びます。 自分の生活を支えるものは、生活手段だけではなく、人々とのかかわり合いであり、そのもつとも身近な人間は家族です。家族とともに過ごす生活のあり方を考えることによって、他の人々とのかかわり合いを考えることに発展していきます。 高校生という立場で、まず自分を見つめ、現在の生活のしくみを学び、そして、自分のこれから的生活をどのように創造していったらよいか考えましょう。

教材名	教科書	家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍)
	副教材	

学習到達目標	①人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得する。 ②学習した知識や技術を活かし、家庭や地域の生活課題を主体的に解決する態度を育成する。 ③家族や社会との共生を目指し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。
学習方法	①毎時間集中して授業に取り組み、ノートをとること。 ②授業で学んだことを家庭で話し合う時間を取り、生活に当てはめ定着を図ること。 ③実験・実習関係の提出物は、記入後期限内に提出すること。

評価の方法 及び 評価基準 と 評価規準 ループリック	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	評価方法	課題の提出状況 授業に対する姿勢 学習到達目標①	定期試験 グループ学習 学習到達目標③	定期試験 学習到達目標①
S	人の一生や日常生活の現象について日頃から強い関心を持ち、その充実向上を目指して主観的に取り組むことができる。	主観的に課題を見つけ、その解決を目指して論理的に思考を深め、適切に判断し、工夫・創造する能力を身につけています。	衣食に関する高い技術を身につけています。課題に合った適切な情報を意欲的に収集することができる。	授業内容に関する基礎的・基本的な知識だけでなく、さらに発展した内容を理解している。
	A	人の一生と日常生活の現象について関心を持ち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むことができる。	与えられた課題の解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫・創造する能力を身につけています。	衣食に関する基礎的・基本的な技術を身につけています。課題に合った適切な情報を収集することができる。
	B	日常生活の現象について関心を持ち、取り組むことができる。	与えられた課題の解決を目指して思考を深め、適切に判断する能力を身につけています。	衣食に関する基礎的・基本的な技術を身につけています。適切な情報を収集することができる。
	C	日常生活の現象に関心を持って取り組むことができず、課題等の取り組みや提出が甘い。	課題の解決を目指して思考を深めることができず、適切に判断することができない。	衣食に関する基礎的・基本的な技術が身についていない。情報を収集することができない。

## 年間学習計画

月	章・単元	学習内容・目標等	時数	備考 (テスト・講習等)
4	第1章 自分らしい人生をつくる 1. 生涯発達の視点 2. 青年期の課題 3. 目標をもって生きる 4. 人生をつくる 5. 家族・家庭を見つめる 6. これからの家庭生活と社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分らしい生き方を考える。</li> <li>・家族の一員としての意識をもつ。</li> <li>・家族形態の変化とその背景を知る。</li> <li>・男女がともに築く家庭生活について、課題や問題点を考える。</li> </ul>	1 2 1 1 2	自己肯定感を高める (ジョハリの窓)
6	第6章 衣生活をつくる 1. 被服の役割を考える 2. 被服入手する 3. 被服を管理する 4. これからの衣生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被服の起源について考える。</li> <li>・繊維・糸・織物・編み物の関係を理解する。</li> <li>・汚れを落とす原理、洗剤の種類や働き補助剤について理解する</li> </ul>	1 1 1 3	被服実習 (ボタン付け・まつり2種)
9	第2章 子どもと共に育つ 1. 子どもの育つ力を知る 2. 親として共に育つ 3. 子どもとの触れ合いから学ぶ 4. これからの保育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・命に対する責任と子どもの幸せについて考える。</li> <li>・子供を取り巻く環境</li> <li>・虐待の現状・我が国の高齢社会の現状について理解しこれからの社会のあり方について考える。</li> </ul>	4 2 1 4	自分の誕生のときのエピソードについて調べる 第2回定期試験 調理実習 3回
12	第3章 高齢社会を生きる 1. 高齢期を理解する 2. 高齢者の心身の特徴 3. これからの高齢社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者に対する正しい認識から介護の基礎など体験的な学びと役割を知る。</li> <li>・暮らしを支える福祉のあり方を理解する。</li> </ul>	1 1 1	冬休み課題 (ホームプロジェクト)
1	第4章 共に生き、共に支える 1. 私たちの生活と福祉 2. 共に生きる 3. 社会保障の考え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な人々のニーズ、ノーマライゼーションの理念を理解し、バリアフリーを具体的に考える。</li> </ul>	2	
2	第8章 経済生活を営む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭の収入と支出</li> <li>・新生活の費用、大学生活の経済学</li> <li>・悪質商法、クレジット、ローン クーリングオフ</li> </ul>	3	第4回定期試験
3	第7章 住生活をつくる  第9章 生活を設計する 生活をデザインしよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災対策</li> <li>・快適な住生活、間取りの見方</li> <li>・自分の目指すライフスタイルを考える</li> </ul>	2 1	グループ学習 (ホームプロジェクト)